

やまこ産業 株式会社

リサイクル
事業

栃本市

ポテトチップスをリサイクル!? 地球をキレイにする会社

企業プロフィール

捨てられてしまう食材をリサイクル

食べ物が溢れかえる現代日本。余った食材はゴミとして廃棄されるのが当たり前の社会だ。近年その傾向に「待った」をかけるべく、ごみとして捨てられてしまう食材をリサイクルする動きが活発化している。栃本市にあるやまこ産業もそうした“捨てられてしまう食材”に着目し、再利用を行っている会社だ。同社では、ポテトチップス等のスナック菓子やインスタント麺を製造する上で出てしまうロス（規格外品等）のリサイクルを行っている。

ポテトチップスを飼料や肥料に

ご存知の通り、ポテトチップスやスナック菓子には大量の油が使用されている。同社はそれらの材料に圧力をかけ再度油を抽出しているのだ。出てきた油は高純度なモノで再度、工業用石鹸等に利用される。「再利用した油って大丈夫なの?」と思う方も多いかもしれないが、工場直送の新鮮な菓子類を材料として使用し、さらに同社でそれを高温・高圧で処理し、雑菌類を死滅させるため、安全性の高い油になっている。一方、残ったカスは、もとはジャガイモやトウモロコシや小麦粉。豚や鶏の良質なエサとして使用され、また、独

自の資源化再生システムを利用して、田畑に使う土壌改良材“リヴァイブ大地”の製造にも使用している。

ゴミは資源

同社の行うリサイクル事業は、循環性の高いシステムだ。ゴミとなるはずの食材を飼料・肥料にし、家畜や野菜の栄養分になり、また人々の食を支える。「経営者が言う事じゃないけど、本当はウチのような会社が無いのが一番。食材のロスが出ないような仕組みが一番いいんです。でも、どうしても出てしまうのであれば、ゴミを資源として生まれ変わらせるため、全力でお手伝いしたいですね」と代表の小倉さんは話す。同社は地産地消の一步先を行く食とエネルギーの“地産地産地消”を実現し、栃本市から世界を変えていく。



代表取締役
小倉久緒（おぐらひさお）
昭和30年1月1日生（59歳）
栃木県出身

元々は教員になって社会教育をやってみたいという夢があったが、他の会社ではやっていない家業のリサイクル事業にも魅力を感じ、会社を継ぐことを決意する。今の夢は地元、岩船山クリフステージのライブで使用される照明等の電力を自社が生産する油を燃料にしてまかなえるシステムを作る事。尊敬する人は、環境を守る為に戦った栃木の偉人“田中正造”。

やまこ産業株式会社

〒329-4312
栃木県栃本市岩舟町下岡 478
TEL. 0282-55-1311
FAX. 0282-54-1212
資本金 / 3800 万円
従業員数 / 13 名
<http://yamaco.biz/>
事業内容 / 動植物油脂製造・飼料製造、他

企業にまつわる数字達

4 億 6402 万 t

日本全国で1年間に渡る「一般廃棄物」と「産業廃棄物」のゴミの総量。(2006年のデータ)

相棒ともいえるこれが必需品!!



“エキスペラー”が同社の必需品だ。エキスペラーは菜種やひまわり、ココナッツ等の油の原料となる素材に圧力を加え、油を搾り取る装置だ。しかし、同社ではそれをポテトチップス等のスナック類から油を搾る装置として使用している。同社のエキスペラーは中古で購入してから40年。購入前の年月を考えると50年以上は現役で使用され

ている装置だ。これほど長く使用できるのも、日々のメンテナンスがあってこそ。定期的にオーバーホールもしている。さらに近年では電子制御システムを搭載し、安定的に搾れるようにバージョンアップもした。同社が掲げる“もったいない”の精神はこの装置一つ取っても十分に理解できる。